

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-13-13

お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合（通話料お客様負担）TEL 0570-004-155

受付時間：AM10:00～PM5:00（土、日、祝日、弊社所定休日を除く）

〈お願い〉

- ・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
- ・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
- ・製品の品質向上のため予告なしに一部仕様変更する場合がありますのであしからずご了承ください。

Aprica

抱っこひも

コラン シーティーエス AB

- ・本製品はキャリートラベルシステム(CTS)専用機種のベビーカーと組み合わせ、キャリートラベルシステムとしてお使いいただけます。
- ・ベビーカーは別売りです。



- ・キャリートラベルシステムの詳細については、キャリートラベルシステムの取扱説明書を参照ください。
- ・キャリートラベルシステムはチャイルドシートには使えません。

取扱説明書／保証書

このたびは、Aprica製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この製品は生後14日以降かつ体重3.5kg以上から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。



〈首すわり前タテ抱っこ〉



〈タテ抱っこ〉



〈前向き抱っこ〉



〈おんぶ〉

※腰ベルトサイズ：74cm～118cm。 ※体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後は、本書はいつも取り出せる場所に必ず保管してください。
本書に記載されている以外の方法で使用しないでください。製品の機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。

もくじ

ご使用前に

抱っこひもについて／表示内容について	1
使用できるお子さまの月齢および体重について	1
安全にお使いいただくために	2
ご使用上の注意	3-4
製品を取り出した時に	5
装着状態	6
バックルの使い方	7
ベルトの調節方法	7

首すわり前タテ抱っこ 〈体重3.5kgから 体重7kgまで〉

首すわり前タテ抱っこの準備	8
首すわり前タテ抱っこの装着方法	9-12
おやすみカーテン	13
首すわり前タテ抱っこの降ろし方	14
新生児シート・新生児シート座部クッションの取り外し	15
新生児シート・新生児シート座部クッションの取り付け	16

タテ抱っこ 〈首がすわってから 体重15kgまで〉

タテ抱っこの準備	17
タテ抱っこの装着方法	17-18
月齢が小さい時	18
タテ抱っこの準備〈座って装着する場合〉	19
タテ抱っこの装着方法〈座って装着する場合〉	19-22

おんぶ 〈首がすわってから 体重15kgまで〉

おんぶの準備	23-26
おんぶの装着方法	26-28
おやすみカーテン	29
月齢が小さい時	30
おんぶの降ろし方	30

前向き抱っこ 〈ひとり座りができてから 体重13kgまで〉

前向き抱っこの準備	31
前向き抱っこの装着方法	31-34
前向き抱っこの降ろし方	35

その他

Q&A	36-37
点検について／お手入れについて	38
SGマーク制度について	39
保証とアフターサービスについて	40
MEMO	41
保証書	42

抱っこひもについて

・この製品は、お子さまを抱っこやおんぶして、外気浴、買い物の時などに使用するための1人用抱っこひもです。
ご使用前にP5「各部の名称」をご確認ください。

表示内容について

・「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表 示	表 示 の 内 容	表 示	表 示 の 内 容
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。		製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。		

使用できるお子さまの月齢および体重について

・SGマーク被害者救済制度の対象は赤ラインでのご使用时です。黒ラインでのご使用时(抱っこひもを首すわり前タテ抱っこの状態で生後14日から1カ月未満のお子さまの使用、抱っこひもをタテ抱っこの状態で24カ月を超えてから36カ月までのお子さまに使用)は対象となりません。SGマーク被害者救済制度につきましては本書P39を参照ください。

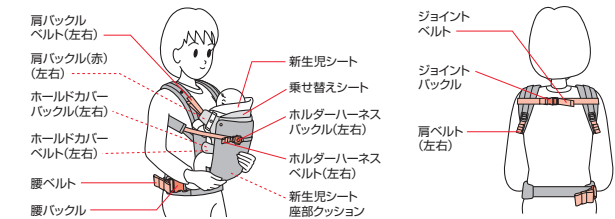
参考月齢		0カ月	14日	1カ月	首すわり(4カ月頃)	7カ月	24カ月	36カ月	使用の条件
抱っこひも	首すわり前タテ抱っこ (装着者の方を向いて抱っこする)				生後14日以降かつ体重3.5Kg以上から体重7Kgまで	ただし首がすわるまで			首すわりまで
	タテ抱っこ				首がすわってから体重15Kgまで				15kgまで
	前向き抱っこ					ひとり座りができてから体重13Kgまで			13kgまで
	おんぶ				首がすわってから体重15Kgまで				15kgまで

※お子さまの発育により、同じ月齢でも体格や体重には個人差があります。また、お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。
※装着者の腰ベルトサイズは74cm~118cmまでご使用いただけます。

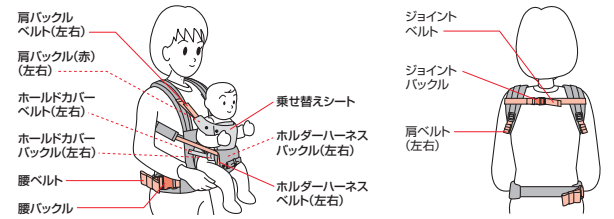
安全にお使いいただくために

- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。
- ・脚部を露出したお子さまに使用された場合、肌に抱っこひもの跡がついたり、まれに肌がこすれて赤くなることがあります。その場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもに直接触れないようにしてください。

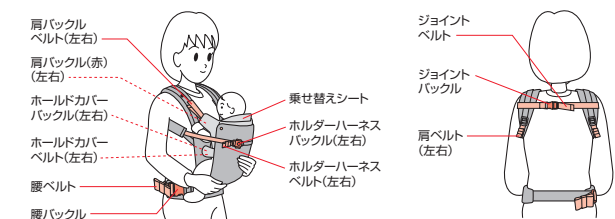
首すわり前タテ抱っこ



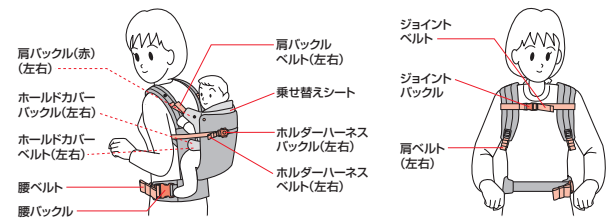
前向き抱っこ



タテ抱っこ



おんぶ



 **警告**

・ご使用の際は、肩バックル(赤)、腰バックル、ジョイントバックル、ホールドカバーバックル、ホルダーハーネスバックルを外した状態で使用しない。
・**お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。**
・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。
・**お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。**

ご使用上の注意

ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

⚠ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。				
肩バックル(赤)、腰バックル、ジョイントバックル、ホールドカバーバックル、ホルダーハーネスバックルを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。	肩バックルベルト、腰ベルト、ジョイントベルト、ホールドカバーベルト、ホルダーハーネスベルトは必ず調節し、緩めた状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。	走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。	首すわり前タテ抱っこ使用時は、乗せ替えシートのみで使用しない。新生児シートと新生児シート座部クッションが取り付けられていることを確認してください。お子さまが体調を損なうおそれがあります。	新生児シートにお子さまを乗せた状態ではホルダーハーネスバックルを外して放置しない。お子さまがバックルに指を入れてけがをするおそれがあります。
タテ抱っこ、おんぶでは、体重15kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。	前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。	抱っこひもの肩バックル(赤)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーを外した状態で使用しない。お子さまが指をけがするおそれがあります。	授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。首すわり前タテ抱っこ使用時は、連続1時間以上使用しない。タテ抱っこ、おんぶ使用時は、連続2時間以上使用しない。お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。	リュックサックなどと併用しない。バックルと干渉し、バックルが外れてお子さまが落下しけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気を付け、手で支える。また頭が下向きにならないように膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・装着する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。乳幼児が開口部から落下するおそれがあります。
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- ・お子さまが眠って後ろに反り返る場合は使用を中止してください。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ベルトの先端の返し縫い部をほどいたり、切り落とした後に使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・梱包袋(パッケージ)はお子さまがかぶらないよう放置しない。窒息する可能性があります。
- ・首すわり前タテ抱っこで使用する場合、お子さまの首がすわるまでは必ず装着者とお子さまが向き合う姿勢で装着する。お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・生後4カ月未満の乳児は、装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、お子さまの頭が新生児シートから出た状態で使用しない。お子さまの頭が支えられないおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、新生児シートのヘッドサポート固定ホックを外した状態で使用しない。お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・乗せ替えシートはキャリートラベルシステム使用時以外、単体での使用はしない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・早産時及び呼吸器疾患等のある乳児は、生後14日以降からでも使用を控えてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・面ファスナーは必ずとめた状態を確認し、ご使用ください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・本製品を改造(染色など)しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・乗せ替えシート、新生児シートを他の抱っこひもに使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・バックルは使用していない時も外したままにしない。お子さまがバックルに指を入れて、けがをするおそれがあります。
- ・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

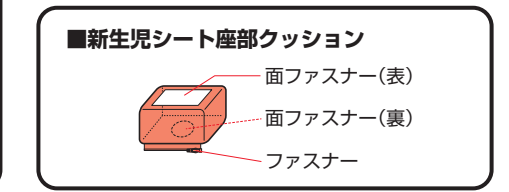
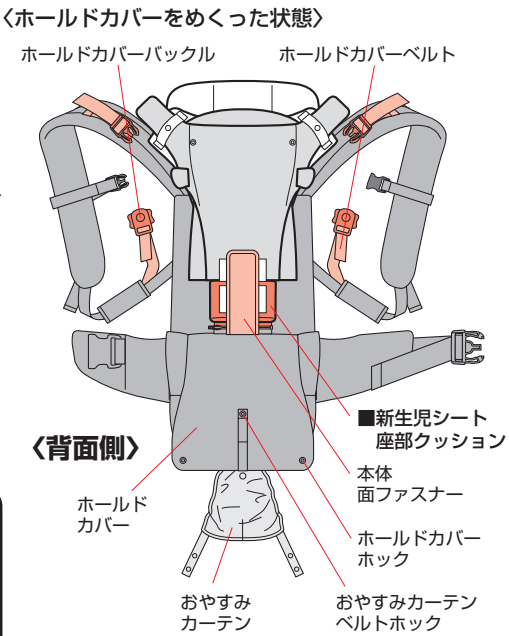
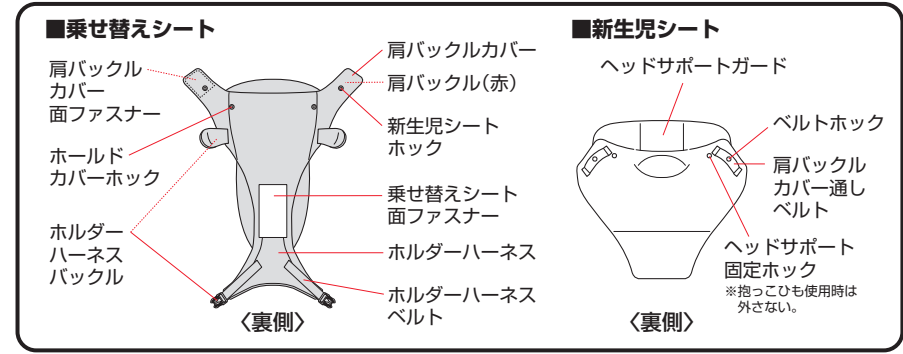
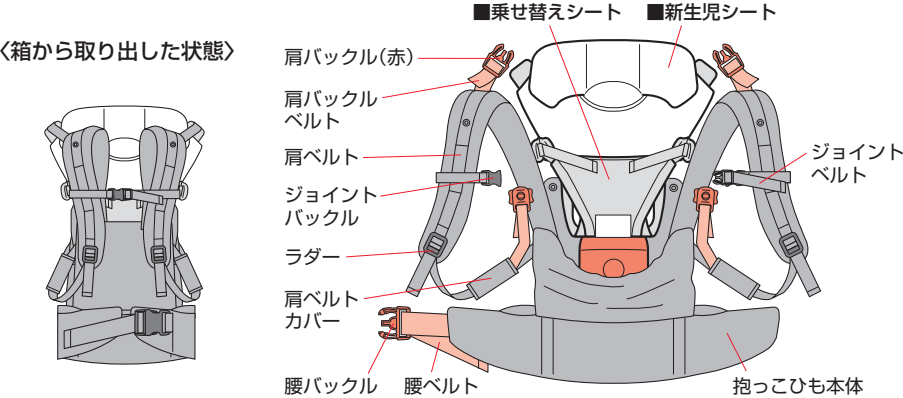
誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

- ・装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。
- ・タテ抱っこでは足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には充分注意してください。
- ・暖房器具の近くなど高温になる場所に放置しない。
- ・直射日光のあたる場所に保管しない。変色や劣化が早まります。
- ・洗濯する際は面ファスナーをとめてください。面ファスナーや本製品の生地および他の洗濯物がいたむおそれがあります。
- ・その他、荷物などの運搬や、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用をしない。

製品を取り出した時に ※乗せ替えシート、新生児シート、新生児シート座部クッションは、箱から取り出した状態では、本体にセットされています。
※おやすみカーテンは、箱から取り出した状態では、おやすみカーテンベルトホックで丸めてたたまれています。

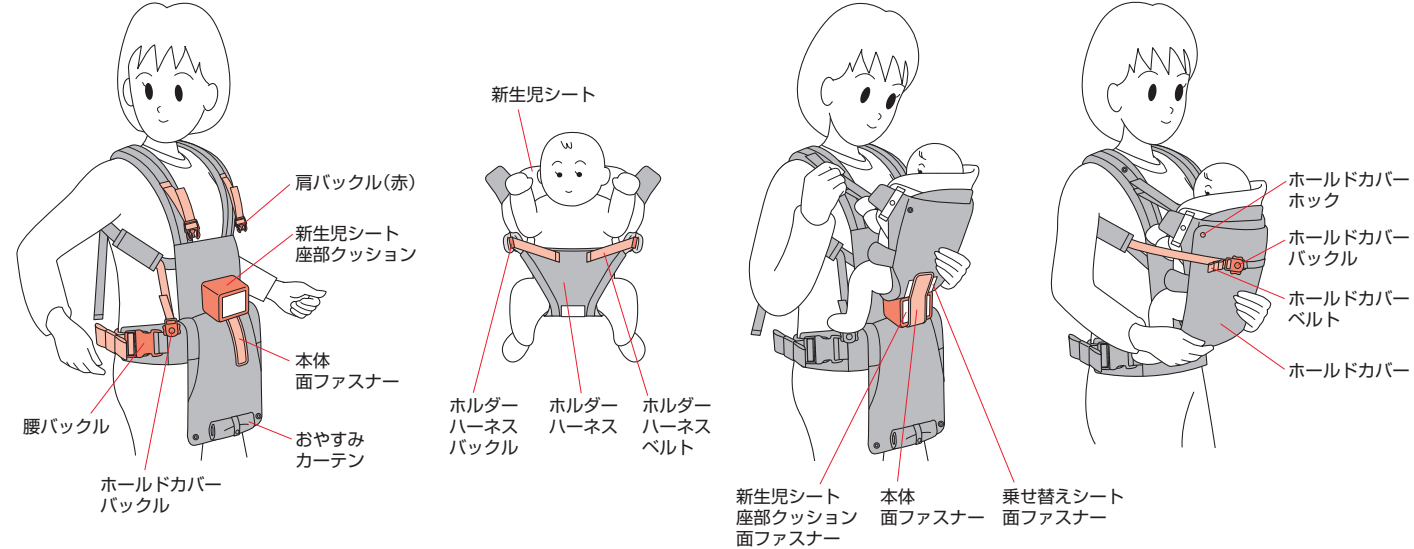
- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかを確認してください。
- ・欠品や破損の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。

各部の名称



装着状態

- ・抱っこひも本体を装着した状態 (P9参照)
- ・乗せ替えシートにお子さまをのせた状態 (P10参照)
- ・首すわり前タテ抱っこの状態 (P12参照)



＜付属品＞



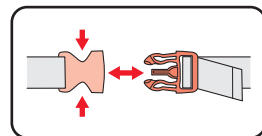
バックルの使い方



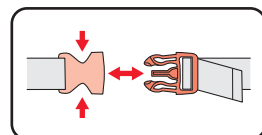
・肩バックル(赤)、腰バックル、ジョイントバックル、ホールドカバーバックル、ホルダーハーネスバックルを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

- ・バックルをとめるときは「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ・バックルを外すときは → ← を押して解除する。

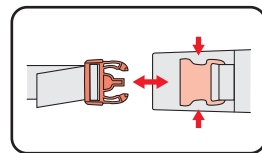
ジョイントバックル



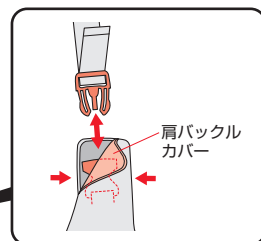
ホルダーハーネスバックル(左右)



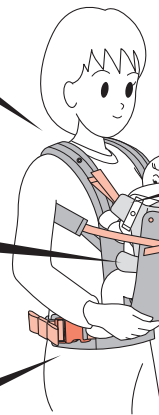
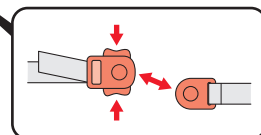
腰バックル



肩バックル(赤)(左右)



ホールドカバーバックル(左右)



ベルトの調節方法

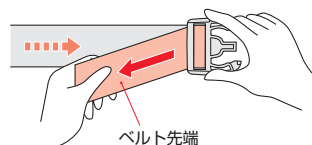


・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

- ・各ベルトの調節方法は共通です。
- ・イラストは腰ベルトで説明しています。

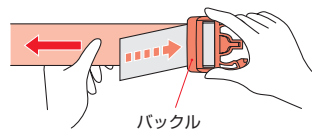
〈短くする時〉

- ・ベルトの先端を引く。



〈長くする時〉

- ・バックルを立てて、ベルトを引き戻す。



首すわり前タテ抱っこの準備

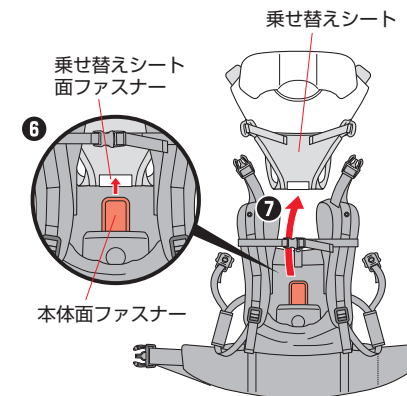
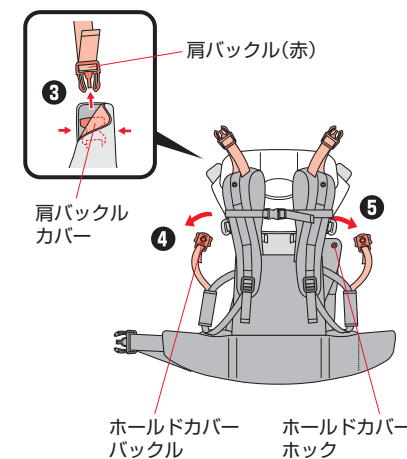
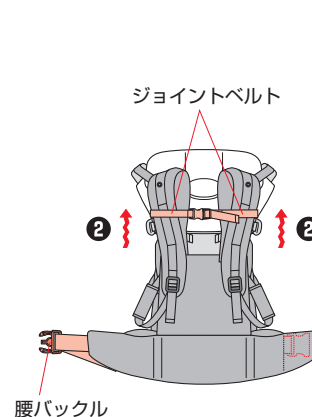
※出荷時は乗せ替えシート、新生児シート、新生児シート座部クッションは抱っこひも本体にセットされています。

〈抱っこひも本体の準備〉

- ①腰バックルを外す。
- ②左右のジョイントベルトを上にならず。

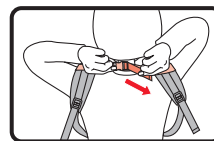
- ③乗せ替えシートの左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を外す。
- ④背面の左右のホールドカバーバックルを外す。
- ⑤背面の左右のホールドカバーホックを外す。

- ⑥乗せ替えシート面ファスナーと本体面ファスナーを外す。
- ⑦乗せ替えシートを取り外す。



アドバイス

・②ジョイントベルトを上にならずと、後で(P9②)ジョイントベルトが調節しやすくなります。



・お子さまを乗せる前に各部のベルトの長さを装着者の身体に合わせて調節する。お子さまと装着者の間に隙間ができて思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

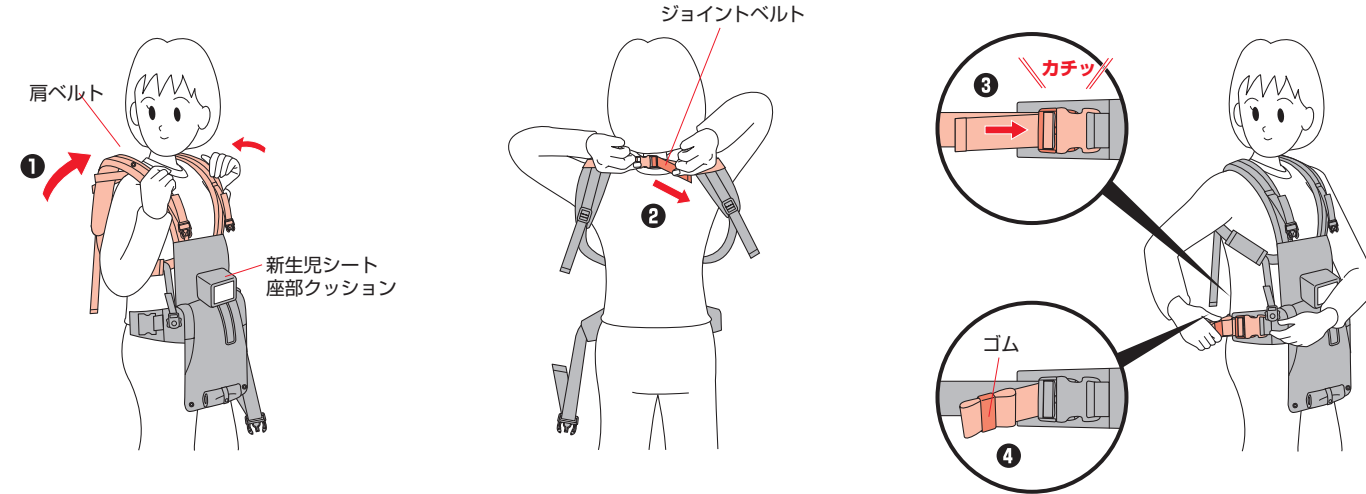
・首すわり前タテ抱っこでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを必ず使用する。お子さまが埋もれて体調を損なうおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこの装着方法

(つづく)

＜抱っこひも本体を装着する＞

- ①左右の肩ベルトをかける。
- ②ジョイントベルトを調節する。
(P7参照)
- ③腰バックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④腰ベルトの長さを調節し(P7参照)、両手であまったベルトをゴムでまとめる。

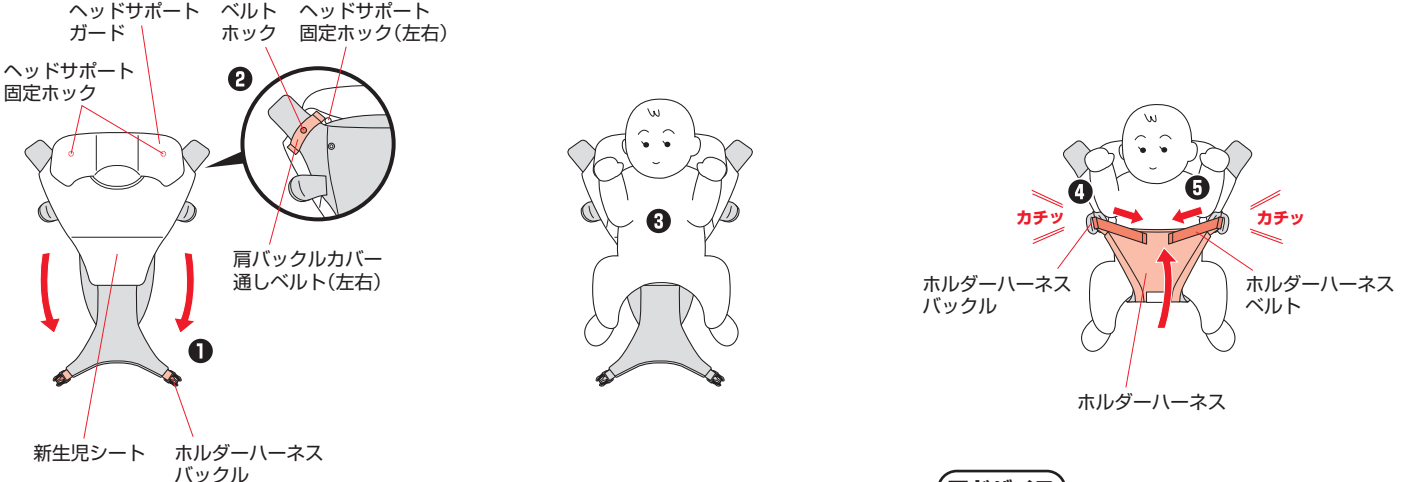


警告

- ・お子さまを乗せる前に各部のベルトの長さを装着者の身体に合わせて調節する。お子さまと装着者の間に隙間ができて思わぬ事故やケガをおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを必ず使用する。お子さまが埋もれて体調を損なうおそれがあります。

＜乗せ替えシートにお子さまをのせる＞

- ①左右のホルダーハーネスバックルを外す。
- ②乗せ替えシートに新生児シートがベルトホックで取り付けられていることを確認する。
- ③安全な場所に乗せ替えシートを表側を上向きに広げ、お子さまの頭部が新生児シートのヘッドサポートガードの位置にくるように寝かせる。
- ④ホルダーハーネスをお子さまのおなかにかぶせ、左右のホルダーハーネスバックルをねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑤左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



警告

- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・ヘッドサポート固定ホックを外した状態で使用しない。お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2～3本入る程度に腹部ベルトを調節します。

警告

- ・ホルダーハーネスバックルを必ず取り付ける。お子さまが落下するおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこ

体重 3.5 kg ～ 体重 7 kg

首すわり前タテ抱っこ

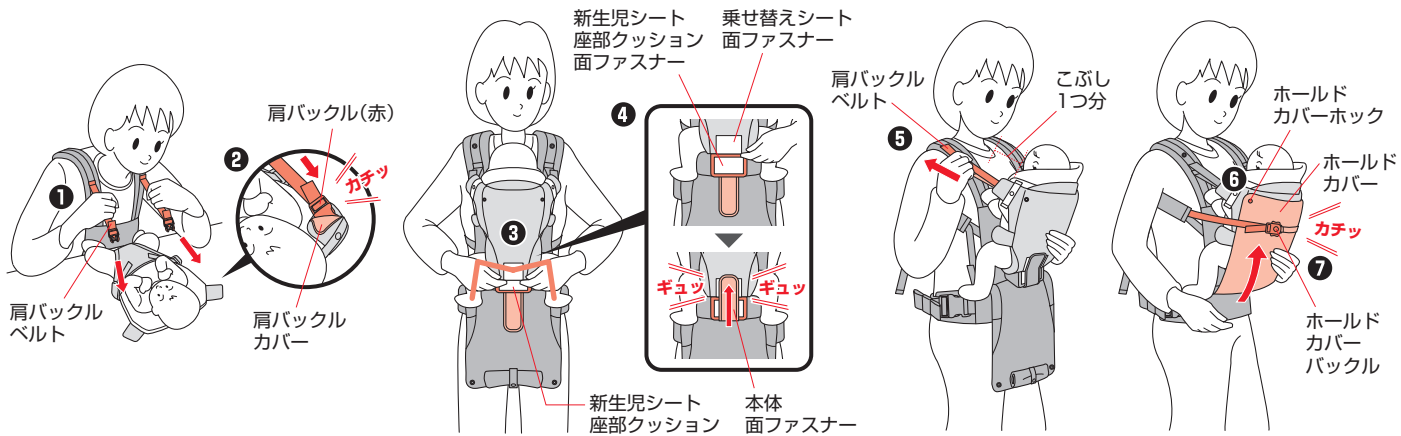
体重 3.5 kg ～ 体重 7 kg

首すわり前タテ抱っこ装着方法 (つづき)

〈乗せ替えシートを装着する〉

- ①抱っこひも本体の肩バックルベルトを長く調節する。(P7参照)
- ②乗せ替えシートの左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③お子さまを両手で抱き上げ、新生児シート座部クッションとお子さまの股の位置を合わせる。
- ④本体面ファスナーでお子さまを持ち上げるように乗せ替えシート面ファスナーにきつくとめる。

- ⑤左右の肩バックルベルトをお子さまと装着者がこぶし1つ分の距離になるまで調節する。(P7参照)
- ⑥ホールドカバーをお子さまの背中にかぶせ、左右のホールドカバーホックをとめる。
- ⑦左右のホールドカバーバックルをとめる。



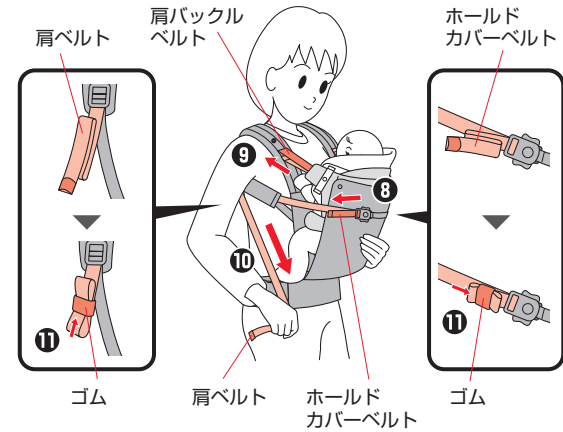
警告

- ・生後4カ月未満の乳児は、装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを必ずご使用ください。お子さまが埋もれて体調を損なうおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこで使用する場合、お子さまの首がすわるまでは必ず装着者とお子さまが向き合う姿勢で装着する。お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。とめないで使用するとお子さまが落下するおそれがあります。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下するおそれがあります。

警告

- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

- ⑧左右のホールドカバーベルトを調節する。(P7参照)
- ⑨左右の肩バックルベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を整える。
- ⑩左右の肩ベルトを調節する。(P7参照)
- ⑪あまったベルトをゴムでまとめる。



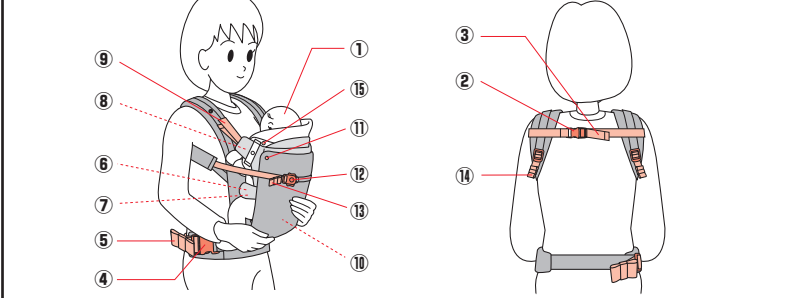
アドバイス

- ・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
- ・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。
- ・抱っこで前にかがむ時は、お子さまが落下しないように気をつけ、必ず手でささえてください。
- ・おんぶや抱っこをする時や、降ろす時は低い姿勢で行ってください。また、低い姿勢ではお子さまの頭が下向きにならないよう膝をまげて腰を落としましょう。

- ⑫鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

首すわり前タテ抱っこの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②ジョイントバックルが確実にとまっている
- ③ジョイントベルトを調節している
- ④腰バックルが確実にとまっている
- ⑤腰ベルトを調節している
- ⑥ホルダーハーネスバックルが確実にとまっている
- ⑦ホルダーハーネスベルトを調節している
- ⑧肩バックル(赤)が確実にとまっている
- ⑨肩バックルベルトを調節している
- ⑩本体面ファスナーをとめている
- ⑪ホールドカバーホックをとめている
- ⑫ホールドカバーバックルをとめている
- ⑬ホールドカバーベルトを調節している
- ⑭肩ベルトを調節している
- ⑮ヘッドサポート固定ホックをとめている



警告

- ・鏡に映して、抱っこの状態を確認する。正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、連続1時間以上は使用しない。お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- ・ヘッドサポート固定ホックを外した状態で使用しない。お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこ

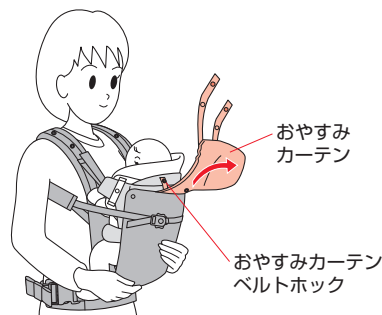
体重 3.5 kg ~ 体重 7 kg

おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。
- ・おやすみカーテン使用時に、お子さまが動いて、頭からずれたりした場合は、正しく付けなおしてください。

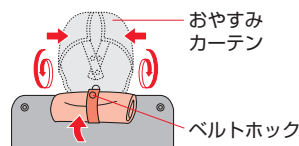
〈取り出し方〉

- ・おやすみカーテンベルトホックを外し、おやすみカーテンを取り出す。



〈使用しない時〉

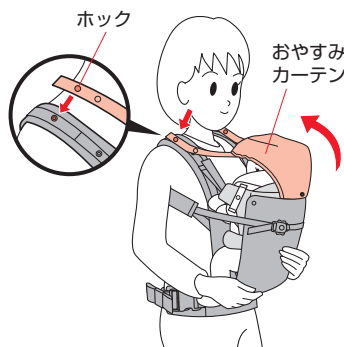
- ・おやすみカーテンを上まで丸めてベルトホックをとめる。



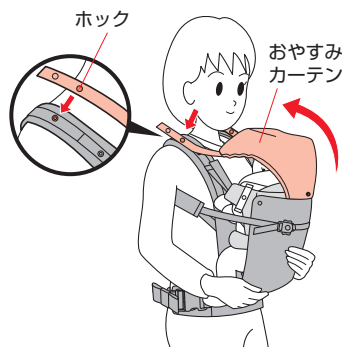
〈調節方法〉

- ・首すわり前タテ抱っこ、タテ抱っこで使用できます。
- ・お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



〈B〉深く



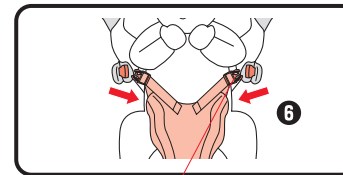
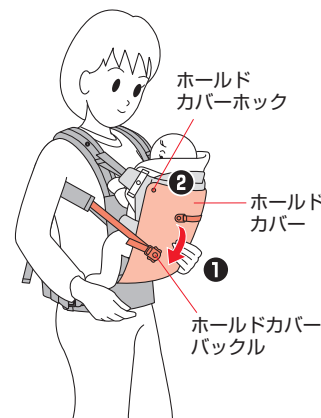
・お子さまが眠って後ろに反り返る場合は抱っこの使用を中止してください。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。



・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこの降ろし方

- ①左右のホールドカバーバックルを外す。
- ②左右のホールドカバーホックを外す。
- ③お子さまを支えた状態で、本体面ファスナーを外す。
- ④お子さまを安全な場所に寝かせ、乗せ替えシートの左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を外す。
- ⑤左右の肩バックルカバー面ファスナーをとめる。
- ⑥ホルダーハーネスバックルを外し、お子さまを降ろす。



ホルダーハーネスバックル



・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。



・抱っこひもの肩バックル(赤)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーを外した状態で使用しない。お子さまが指をけがするおそれがあります。

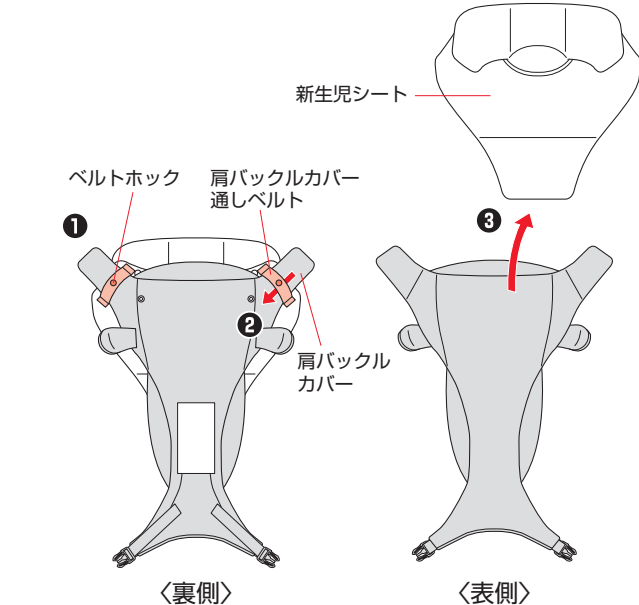
首すわり前タテ抱っこ
 新生児シート・新生児シート座部クッションの取り外し

※出荷時は新生児シートと新生児シート座部クッションがセットされています。

- ・抱っこひも本体から乗せ替えシートを外した状態で行う。(P8参照)
- ・取り外した部品をなくさないよう大切に保管してください。

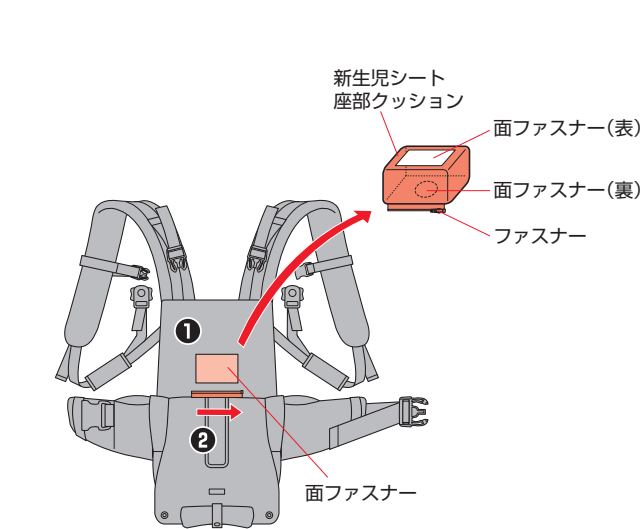
新生児シート

- 1 新生児シートの左右の肩バックルカバーを通しベルトのベルトホックを外す。
- 2 肩バックルカバーを抜く。
- 3 新生児シートを取り外す。



新生児シート座部クッション

- 1 新生児シート座部クッションの面ファスナーを外す。
- 2 新生児シート座部クッションのファスナーを外し、新生児シート座部クッションを取り外す。



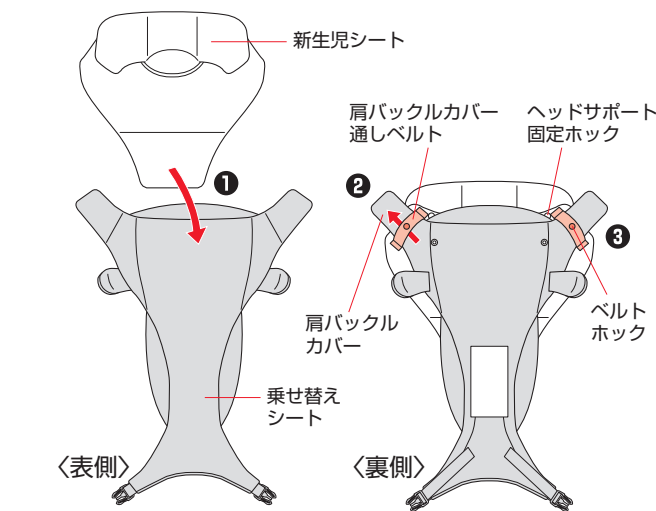
新生児シート・新生児シート座部クッションの取り付け

※出荷時は新生児シートと新生児シート座部クッションがセットされています。

- ・首すわり前タテ抱っこで使用する際は、必ず新生児シートと新生児シート座部クッションを取り付けてください。
- ・タテ抱っこ、前向き抱っこ、おんぶで使用する際は、新生児シートと新生児シート座部クッションを取り外してください。

新生児シート

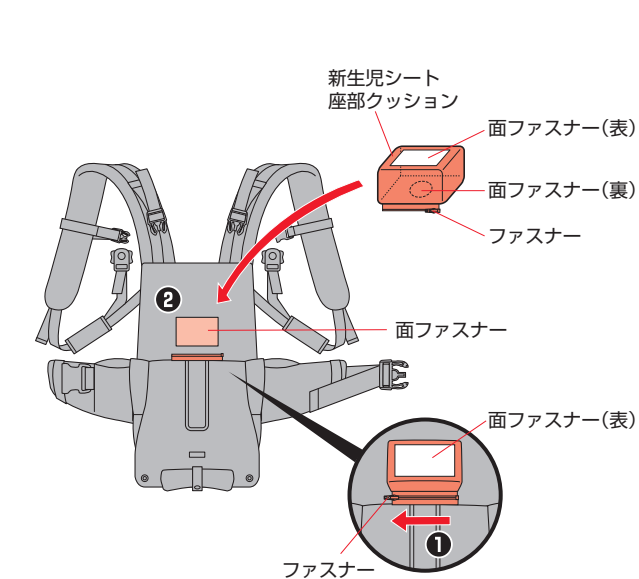
- 1 新生児シートを乗せ替えシートにセットする。
- 2 乗せ替えシートの肩バックルカバーを新生児シートの左右の肩バックルカバーを通しベルトに通す。
- 3 左右のベルトホックをとめる。



警告
 ・ヘッドサポート固定ホックを外した状態で使用しない。
 お子さまの体調を損ねたり思わぬ事故につながるおそれがあります。

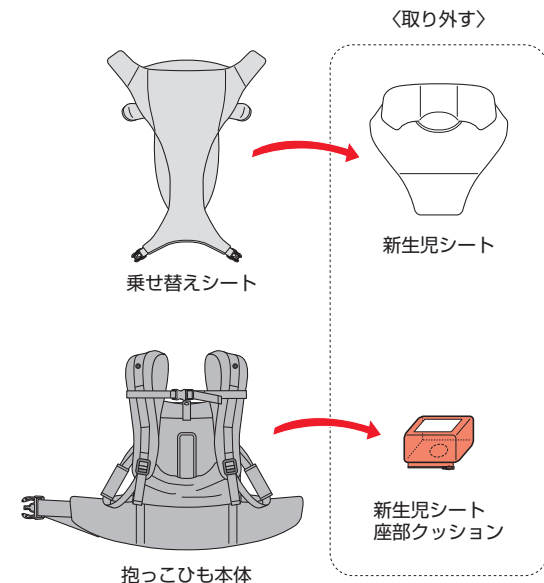
新生児シート座部クッション

- 1 新生児シート座部クッションのファスナーを抱っこひも本体のファスナーにとめる。
- 2 新生児シート座部クッションの面ファスナーをとめる。



タテ抱っこの準備

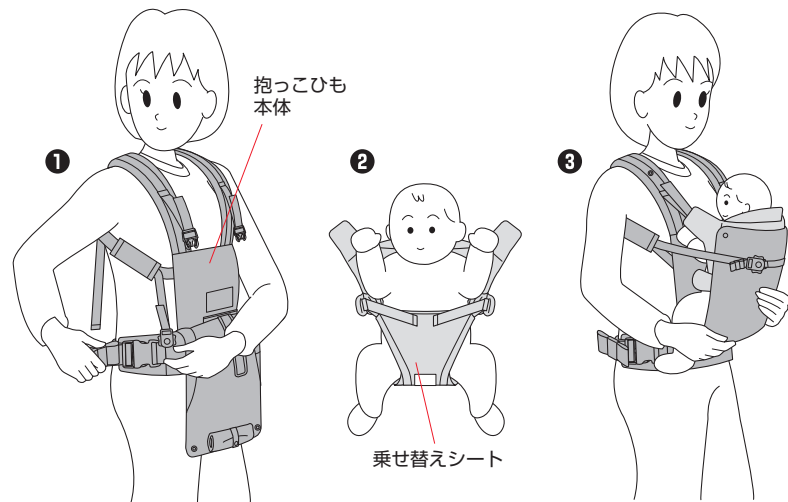
- ①P8「首すわり前タテ抱っこの準備」を参照して、抱っこひもを広げる。
②P15「新生児シート・新生児シート座部クッションの取り外し」を参照して、新生児シートと新生児シート座部クッションを取り外す。



※お子さまの首がすわってから、タテ抱っこで使用する時は、新生児シートと新生児シート座部クッションは取り外してください。
※取り外した部品をなくさないよう大切に保管してください。新生児シート座部クッションは面ファスナーで生地をキズつけるおそれがありますので個別に保管してください。

タテ抱っこの装着方法

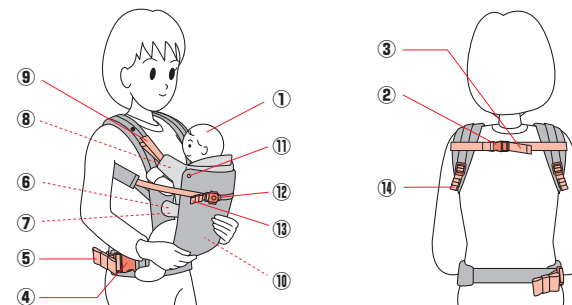
- ①P9〈抱っこひも本体を装着する〉を参照して、抱っこひも本体を装着する。
②P10〈乗せ替えシートにお子さまをのせる〉を参照して、お子さまを乗せ替えシートにのせる。
③P11～12〈乗せ替えシートを装着する〉を参照して、タテ抱っこに装着する。
・座って装着する場合はP19～22を参照してください。



- ④鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

タテ抱っこの確認

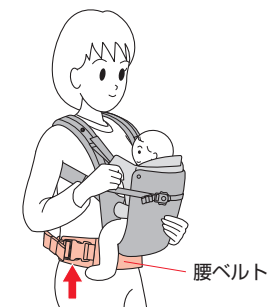
- ① お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
② ジョイントバックルが確実にとまっている
③ ジョイントベルトを調節している
④ 腰バックルが確実にとまっている
⑤ 腰ベルトを調節している
⑥ ホルダーハーネスバックルが確実にとまっている
⑦ ホルダーハーネスベルトを調節している
⑧ 肩バックル(赤)が確実にとまっている
⑨ 肩バックルベルトを調節している
⑩ 本体面ファスナーをとめている
⑪ ホールドカバーホックをとめている
⑫ ホールドカバーバックルをとめている
⑬ ホールドカバーベルトを調節している
⑭ 肩ベルトを調節している



- ⚠ 警告
- ・鏡に映して、抱っこの状態を確認する。正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
 - ・タテ抱っこ使用時は、連続2時間以上は使用しない。
 - ・お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。
 - ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
 - ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。
 - ・お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。



- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



タテ抱っここの準備〈座って装着する場合〉

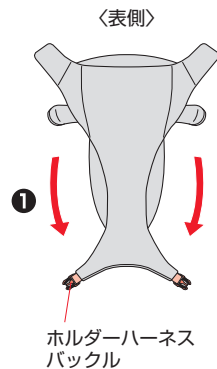
〈抱っこひも本体の準備〉

- ①腰バックルを外す。
・乗せ替えシートと新生児シート座部クッションが取り外されていることを確認する。
- ②ジョイントベルトを上にはずらす。
- ③左右の肩ベルトを長めに調節する。(P7参照)



〈乗せ替えシートの準備〉

- ①左右のホルダーハーネスバックルを外す。
・新生児シートが取り外されていることを確認する。



アドバイス

・肩ベルトを長めに調節すると、お子さまを乗せやすくなります。

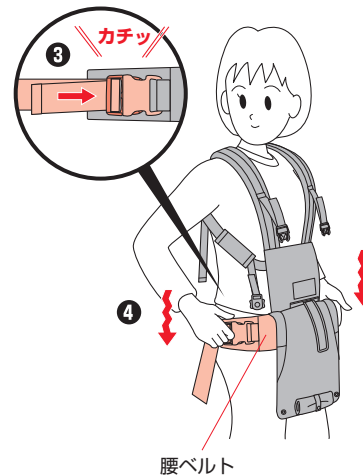
タテ抱っここの装着方法〈座って装着する場合〉

〈抱っこひも本体を装着する〉

- ①左右の肩ベルトをかける。
- ②ジョイントベルトを調節する。(P7参照)



- ③腰バックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④腰ベルトの位置を下げる。

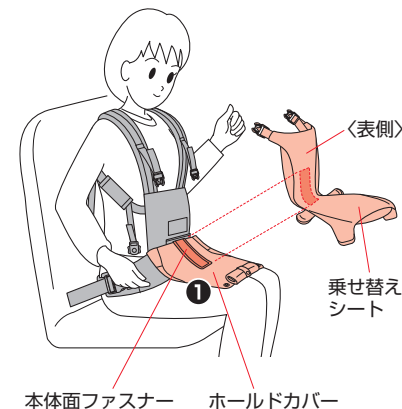


アドバイス

・腰ベルトを下げると、お子さまを乗せやすくなります。

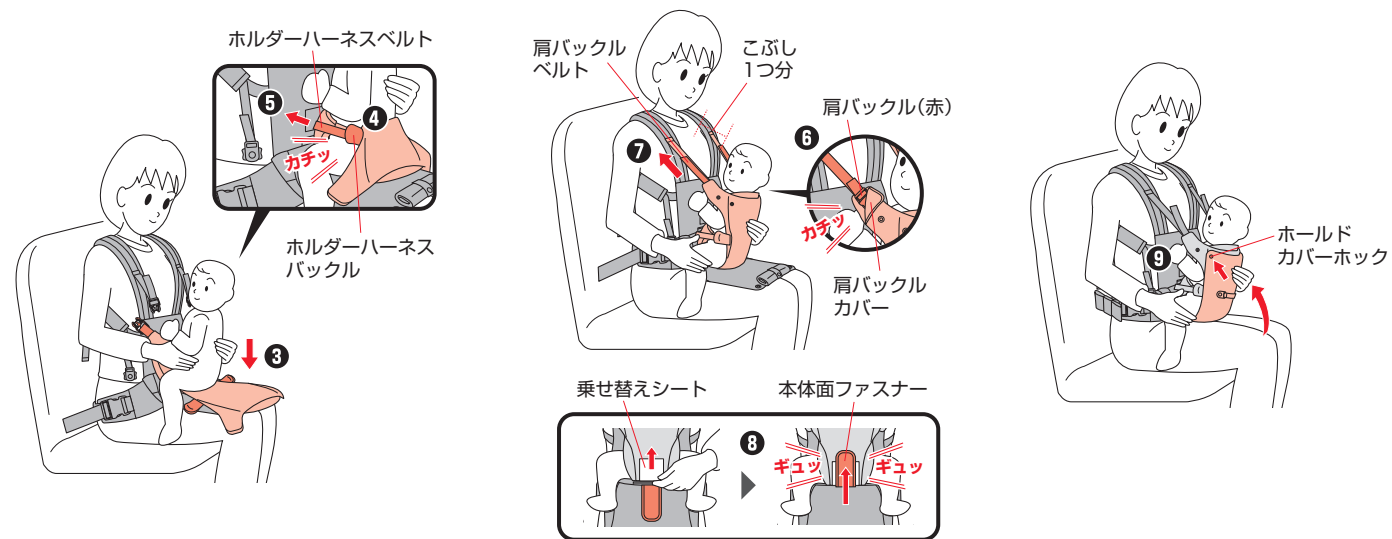
〈お子さまをのせる〉

- ①安全な場所に座り、ホールドカバーを膝の上に広げる。
- ②乗せ替えシートを本体面ファスナーに合わせてとめる。



タテ抱っこの装着方法〈座って装着する場合〉（つづき）

- ③ お子さまを乗せる。
④ 片方の手でお子さまを支え、左右のホルダーハーネスバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
⑤ 左右のホルダーハーネスベルトを調節する。
⑥ 乗せ替えシートの左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
⑦ 左右の肩バックルベルトをお子さまと装着者がこぶし1つ分の距離になるまで調節する。
⑧ 本体面ファスナーでお子さまを持ち上げるように乗せ替えシートにきつくとめる。
⑨ 左右のホールドカバーホックをとめる。



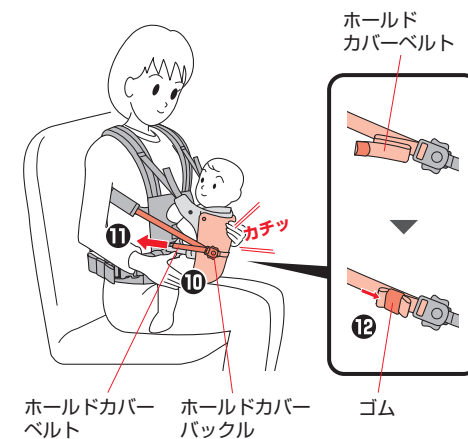
警告

- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・ホルダーハーネスバックルを必ず取り付ける。
お子さまが落下するおそれがあります。

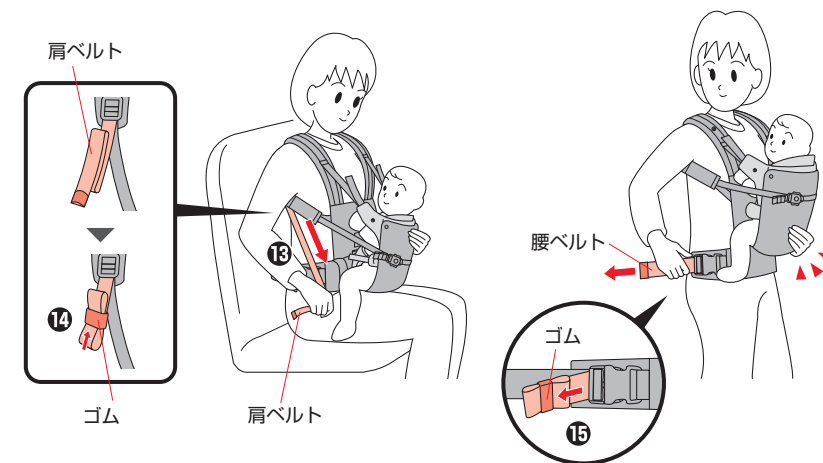
警告

- ・タテ抱っこでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを使用しない。**お子さまが体調を損なうおそれがあります。**
- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。**とめないで使用するとお子さまが落下するおそれがあります。**
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。**お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違ったり、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下するおそれがあります。**
- ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。**気道がふさがると窒息するおそれがあります。**

- ⑩ 左右のホールドカバーバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑪ 左右のホールドカバーベルトを調節する。
- ⑫ あまったホールドカバーベルトをゴムでまとめる。



- ⑬ 左右の肩ベルトを調節する。(P7参照)
- ⑭ あまった肩ベルトをゴムでまとめる。
- ⑮ お子さまを少し持ち上げ、腰ベルトの位置や長さを調節し(P7参照)、両手であまったベルトをゴムでまとめる。
- ⑯ 鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。(P18参照)



アドバイス

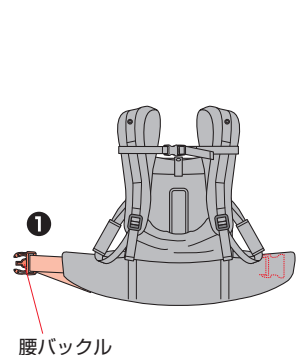
- ・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
- ・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

おんぶの準備 ※おんぶをする時は、一旦タテ抱っこにした状態で準備してから、おんぶで装着します。

(つづく)

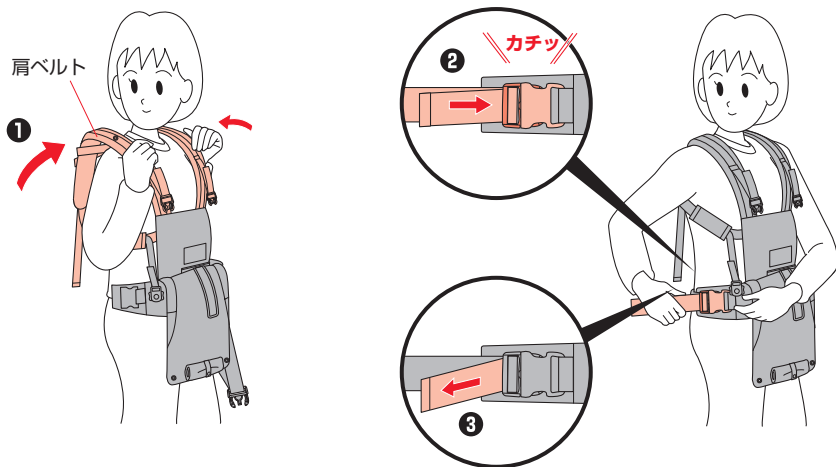
〈抱っこひも本体の準備〉

- ①腰バックルを外す。
 - ・乗せ替えシートと新生児シート座部クッションが取り外されていることを確認する。



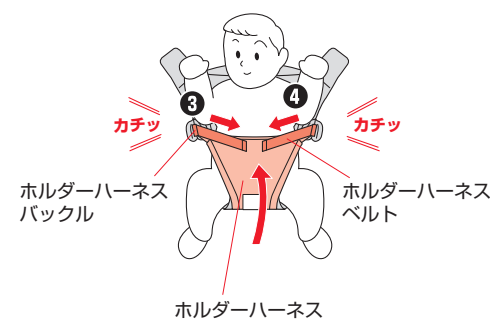
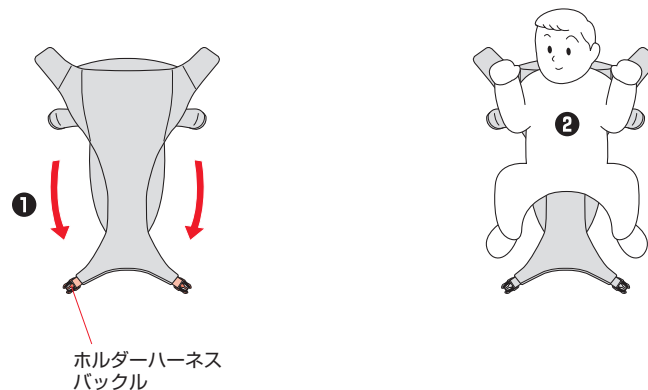
〈抱っこひも本体を装着する〉

- ①左右の肩ベルトをかける。
- ②腰バックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③腰ベルトの長さを調節する。(P7参照)



〈乗せ替えシートにお子さまをのせる〉

- ①左右のホルダーハーネスバックルを外す。
 - ・新生児シートが取り外されていることを確認する。
- ②安全な場所に乗せ替えシートを表側を上向きにして広げ、お子さまを寝かせる。
- ③ホルダーハーネスをお子さまのおなかにかぶせ、左右のホルダーハーネスバックルをねじれのないう「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



・お子さまを乗せる前に各部のベルトの長さを装着者の身体に合わせて調節する。お子さまと装着者の間に隙間ができて思わぬ事故やケガをするおそれがあります。
・おんぶでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを使用しない。お子さまが体調を損なうおそれがあります。



・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2〜3本入る程度に腹部ベルトを調節します。



・ホルダーハーネスバックルを必ず取り付ける。
お子さまが落下するおそれがあります。

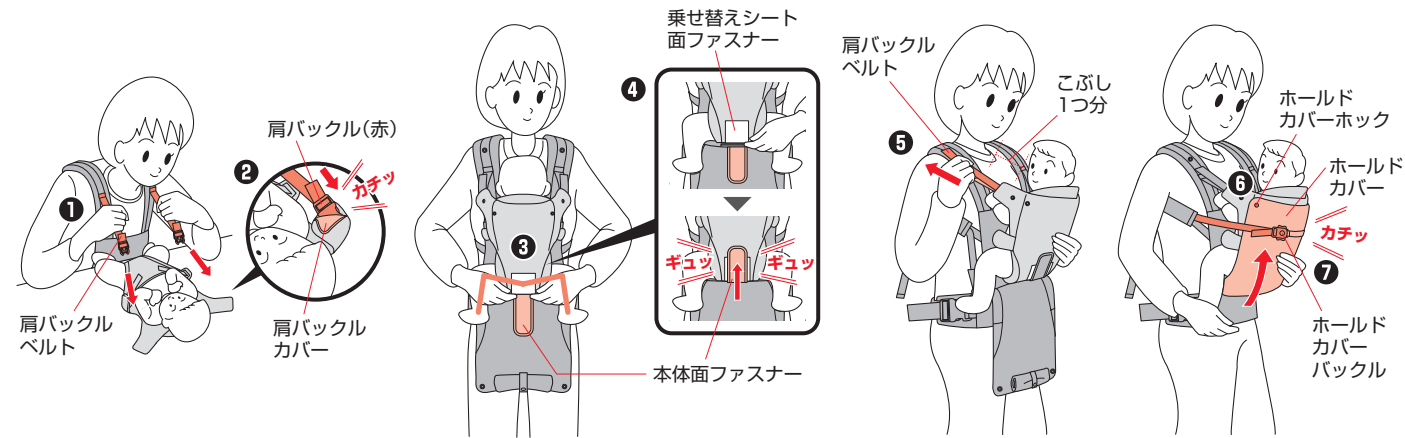
おんぶの準備 (つづき)

〈乗せ替えシートを装着する〉

- ①抱っこひも本体の肩バックルベルトを長く調節する。(P7参照)
- ②左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を「カチッ」と音がするまで差し込む。

- ③お子さまを両手で抱き上げ、本体面ファスナーとお子さまの股の位置を合わせる。
- ④本体面ファスナーでお子さまを持ち上げるように乗せ替えシート面ファスナーにきつくとめる。

- ⑤左右の肩バックルベルトをお子さまと装着者がこぶし1つ分の距離になるまで調節する。(P7参照)
- ⑥ホールドカバーをお子さまの背中にかぶせ、左右のホールドカバーホックをとめる。
- ⑦左右のホールドカバーバックルをとめる。



- 警告**
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
 - ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
 - ・おんぶでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを使用しない。
 - ・お子さまが体調を損なうおそれがあります。
 - ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。とめないで使用するとお子さまが落下するおそれがあります。
 - ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下するおそれがあります。

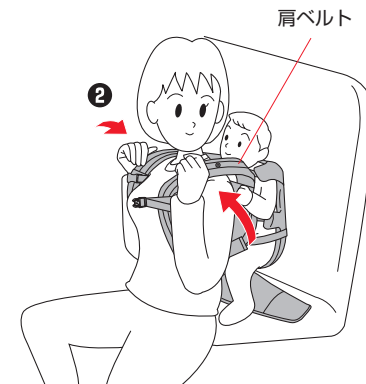
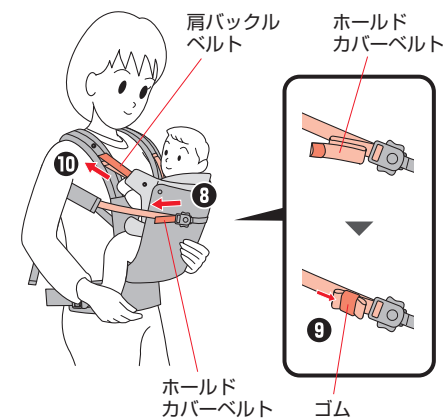
- 警告**
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。
 - ・お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

おんぶの装着方法 (つづく)

〈おんぶで装着する〉

- ①タテ抱っこの状態から、腰バックル、ジョイントバックルを外し、肩ベルトを外して、安全な場所にお子さまを座らせる。
- ②左右の肩ベルトをかける。

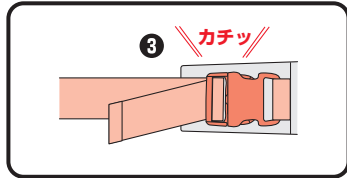
- ③左右のホールドカバーベルトを調節する。
- ⑨あまったベルトをゴムでまとめる。
- ⑩左右の肩バックルベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を整える。



- 警告**
- ・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
 - ・お子さまをおんぶする時は、お子さまの動きに注意し、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらったより安全です。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
 - ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

おんぶの装着方法 (つづき)

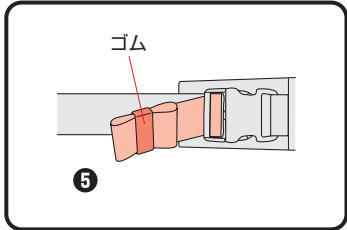
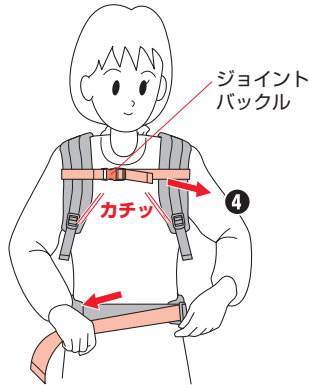
③前かがみの体勢でお子さまを背負い、腰バックルをとめる。



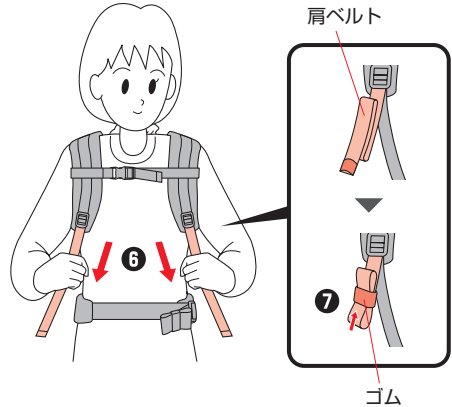
警告

・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

④ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
⑤腰ベルトを調節して (P7参照)、あまったベルトをゴムでまとめる。



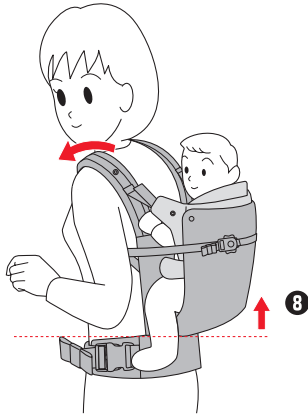
⑥左右の肩ベルトを調節する。(P7参照)
⑦あまったベルトをゴムでまとめる。



アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

⑧お子さまのお尻の位置が腰ベルトより高くなるように調節する。
(左右の肩ベルトを調節したり (P7参照)、腰ベルトの位置を下げる。)

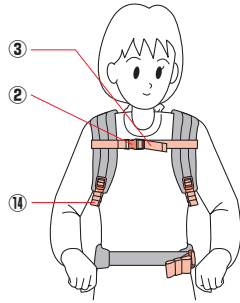
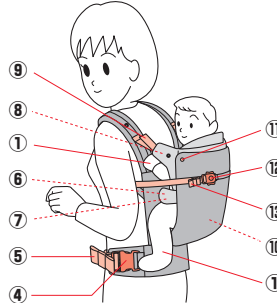


⑨鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

おんぶの確認

- ① お子さまの両腕、両足が出ている
② ジョイントバックルが確実にとまっている
③ ジョイントベルトを調節している
④ 腰バックルが確実にとまっている
⑤ 腰ベルトを調節している
⑥ ホルダーハーネスバックルが確実にとまっている
⑦ ホルダーハーネスベルトを調節している

⑧ 肩バックル(赤)が確実にとまっている
⑨ 肩バックルベルトを調節している
⑩ 本体面ファスナーをとめている
⑪ ホールドカバーフックをとめている
⑫ ホールドカバーバックルをとめている
⑬ ホールドカバーベルトを調節している
⑭ 肩ベルトを調節している



警告

・鏡に映して、おんぶの状態を確認する。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

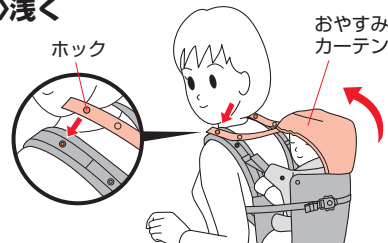
おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。

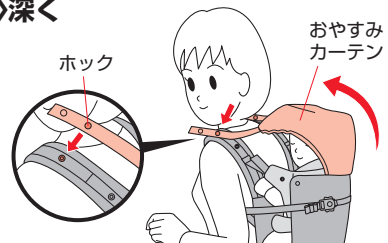
〈調節方法〉

- ・おやすみカーテンベルトホックを外し、取り出して使用する。(P13参照)
- ・お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



〈B〉深く



アドバイス

・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがお子さまの頭を覆っていることを確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度調節しなおしてください。

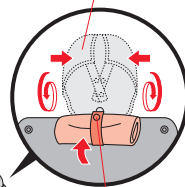


・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

- ・おやすみカーテンを上まで丸めてベルトホックをとめる。

おやすみカーテン



ベルトホック



・お子さまが眠って後ろに反り返る場合はおんぶの使用を中止してください。
お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。

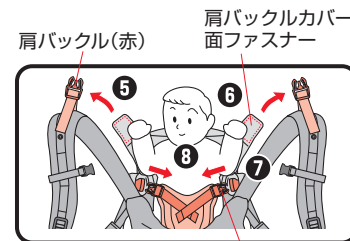
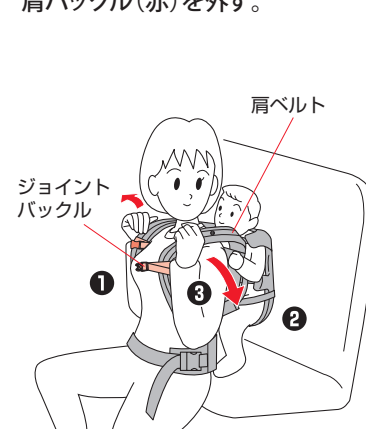


- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



おんぶの降ろし方

- ① ジョイントバックルを外す。
- ② お子さまをゆっくり降ろす。
- ③ 左右の肩ベルトを外す。
- ④ 腰バックルを外す。
- ⑤ 左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を外す。
- ⑥ 左右の肩バックルカバー面ファスナーをとめる。
- ⑦ 左右のホルダーハーネスバックルを外す。
- ⑧ お子さまを降ろす。



ホルダーハーネスバックル



・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。低い姿勢ではお子さまの頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらとうより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

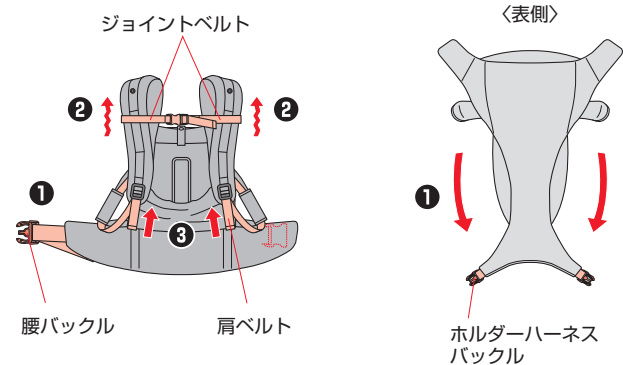


・抱っこひもの肩バックル(赤)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーを外した状態で使用しない。
お子さまが指をけがするおそれがあります。

前向き抱っこ準備

〈抱っこひも本体の準備〉

- ①腰バックルを外す。
・乗せ替えシートと新生児シート座部クッションが取り外されていることを確認する。
- ②ジョイントベルトを上にはずらす。
- ③左右の肩ベルトを長めに調節する。(P7参照)



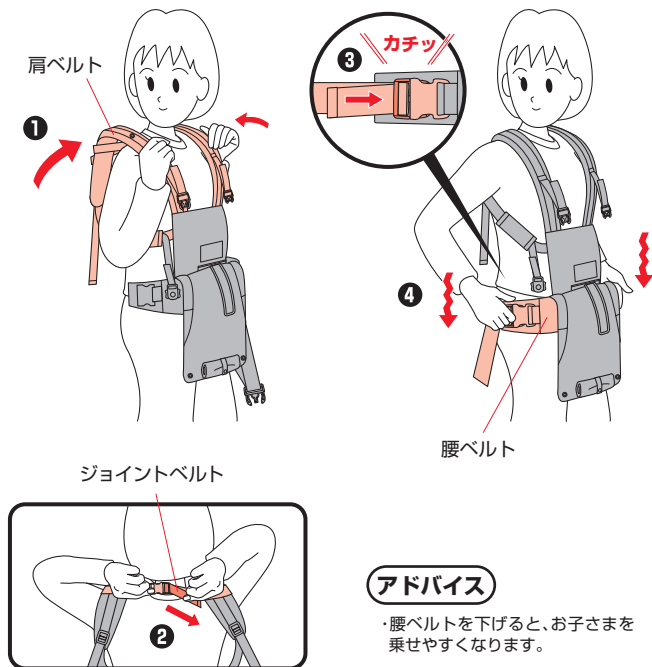
アドバイス

・肩ベルトを長めに調節すると、お子さまを乗せやすくなります。

前向き抱っこの装着方法

〈抱っこひも本体を装着する〉

- ①左右の肩ベルトをかける。
- ②ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
- ③腰バックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④腰ベルトの位置を下げる。

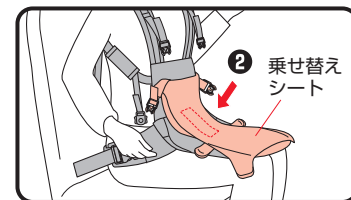
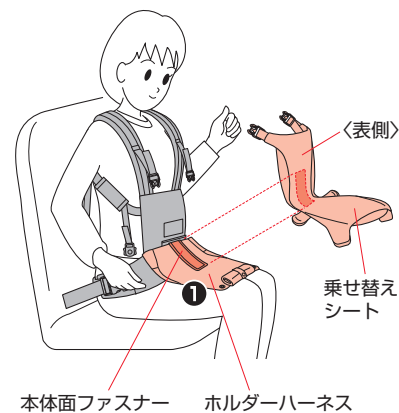


アドバイス

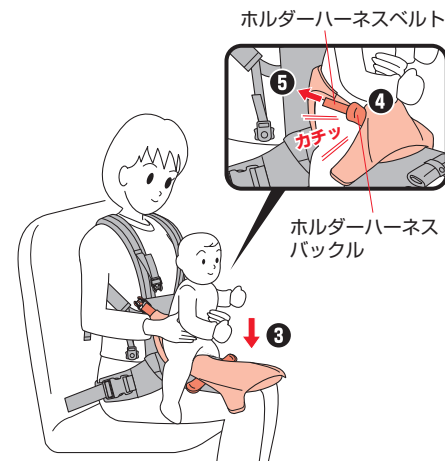
・腰ベルトを下げると、お子さまを乗せやすくなります。

〈お子さまをのせる〉

- ①安全な場所に座り、ホールドカバーを膝の上に広げる。
- ②乗せ替えシートを本体面ファスナーに合わせてとめる。

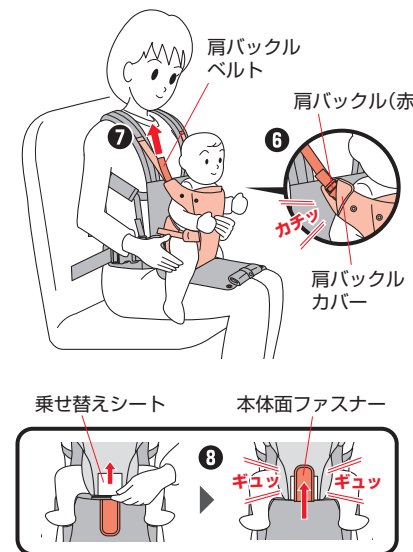


- ③お子さまを前向きに乗せる。
- ④片方のお子さまを支え、左右のホルダーハーネスバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑤左右のホルダーハーネスベルトを調節する。



・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・ホルダーハーネスバックルを必ず取り付ける。
落下のおそれがあります。

- ⑥左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑦左右の肩バックルベルトを調節する。
- ⑧本体面ファスナーで、お子さまを持ち上げるように乗せ替えシートにきつくとめる。



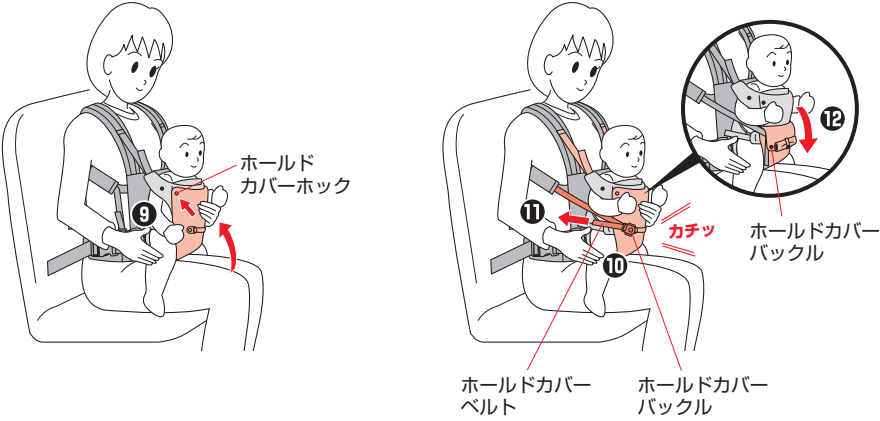
アドバイス

・お子さまの腕は肩ベルトの外側でも内側でも構いません。ただし外側に出している時に、お子さまが前のめりになる場合は、肩ベルトの内側に腕を入れてください。

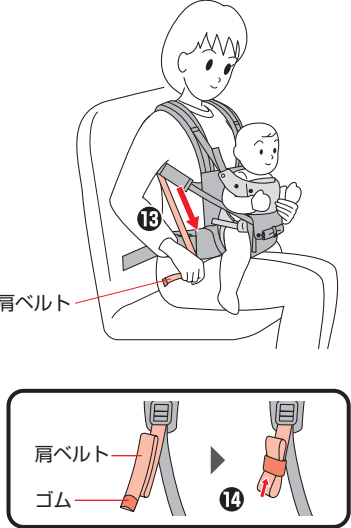
(つづく)

前向き抱っこ（つづき）

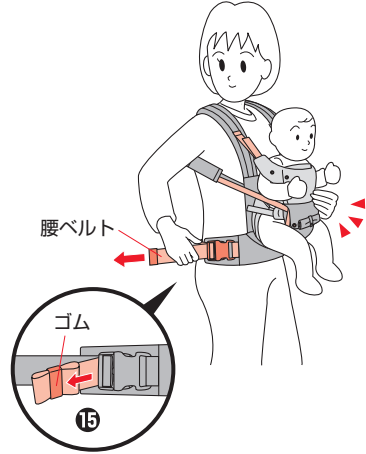
- ⑨左右のホールドカバーホックをとめる。
- ⑩左右のホールドカバーバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑪左右のホールドカバーベルトを調節する。
- ⑫左右のホールドカバーホックを外し、下にたらす。



- ⑬左右の肩ベルトを調節する。（P7参照）
- ⑭あまったベルトをゴムでまとめる。



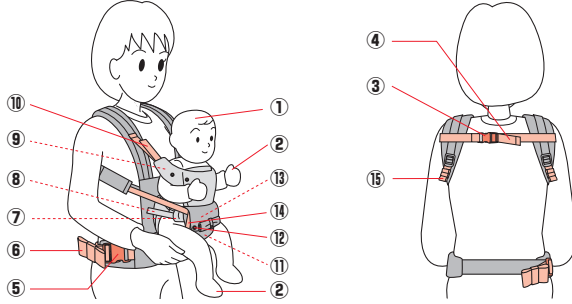
- ⑮お子さまを少し持ち上げ、腰ベルトの位置や長さを調節し（P7参照）、両手であまったベルトをゴムでまとめる。



- ⑯鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

前向き抱っこの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②お子さまの両腕、両足が出ている
- ③ジョイントバックルが確実にとまっている
- ④ジョイントベルトを調節している
- ⑤腰バックルが確実にとまっている
- ⑥腰ベルトを調節している
- ⑦ホルダーハーネスバックルが確実にとまっている
- ⑧ホルダーハーネスベルトを調節している
- ⑨肩バックル（赤）が確実にとまっている
- ⑩肩バックルベルトを調節している
- ⑪本体面ファスナーをとめている
- ⑫ホールドカバーホックを外している
- ⑬ホールドカバーバックルをとめている
- ⑭ホールドカバーベルトを調節している
- ⑮肩ベルトを調節している



- ・鏡に映して、前向き抱っこの状態を確認する。正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

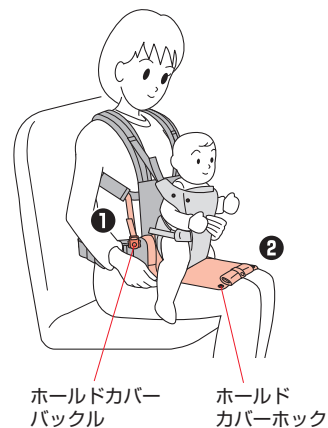
アドバイス

- ・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
- ・前向き抱っこの使用は、お子さまが前のめりになったりして負担がかかる場合もあるので、30分程度を目安としてください。
- ・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

- 警告
- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・前向き抱っこでは、新生児シートと新生児シート座部クッションを使用しない。お子さまが体調を損なうおそれがあります。
- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。とめないで使用するとお子さまが落下するおそれがあります。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下するおそれがあります。

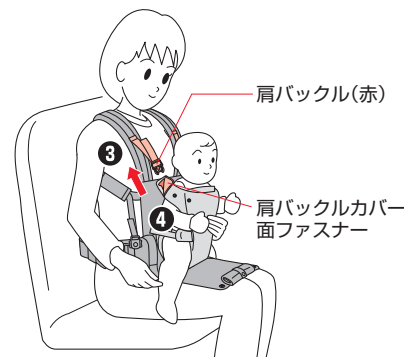
前向き抱っこの降ろし方

- ①安全な場所に座り、左右のホールドカバーバックルを外す。
- ②左右のホールドカバーホックを外す。



・お子さまを降ろす時は必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

- ③片方のお子さまを支え、左右の肩バックルカバーをめくり、肩バックル(赤)を外す。
- ④左右の肩バックルカバー面ファスナーをとめる。



・抱っこひもの肩バックル(赤)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーを外した状態で使用しない。
お子さまが指をけがするおそれがあります。

- ⑤左右のホルダーハーネスバックルを外す。
- ⑥お子さまを降ろす。



Q&A

(つづく)

Q

タテ抱っこの時、体が埋もれる感じになり、子どもの顔が見えない状態ですが、このまま使用してもいいですか？

A

お子さまの身長に対して背あて部分が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めめのウエストあたりに装着するようにしてください。(P18参照)

Q

腰ベルトをどのあたりに装着すればよいですか？

A

一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

Q

ベルトの余りが長く垂れ下がって気になります。

A

ベルトはゴムでまとめることができます。(P9、P12参照)

Q&A（つづき）

Q タテ抱っこ時、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？

A お子さまの肩が外に出てしまっても、使用上の問題はありせん。ただし、特にひとりすわり前のお子さまは上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

Q 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが…。

A お子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひものが直接触れないようにしてください。

Q 製品購入後、箱を開けたらニオイがするのですが、大丈夫でしょうか？

A 製品特有のニオイがすることがありますが、品質上問題ございません。

点検について

- ・ご使用の前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずが無いことを確認してください。異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉

- ・濡らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉 本体、乗せ替えシート、新生児シート、新生児シート座部クッション



※洗濯ネット使用、ねじり又は絞りは禁止



- ・本体および、乗せ替えシート、新生児シート、新生児シート座部クッションは乾燥機を使用しないでください。バックルなどの破損や、変形につながるおそれがあります。
- ・他の物とは別に洗濯してください。色落ちし移染するおそれがあります。
- ・蛍光剤入りの洗剤を使用しないでください。
- ・漂白剤を使用しないでください。
- ・漬け置きしないでください。
- ・濡れたまま放置しないでください。カビなどが発生するおそれがあります。
- ・洗濯後、充分乾燥させて使用してください。乾燥が不十分な場合、カビなどが発生するおそれがあります。
- ・抱っこひも本体の面ファスナーをとめて洗ってください。洗濯物を傷つけるおそれがあります。
- ・新生児シート座部クッションは、面ファスナーがほかの洗濯物を傷つけるおそれがありますので別に洗ってください。

SGマーク制度について



SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、抱っこひもの場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。

〈抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

- ・首すわり前タテ抱っこ：1カ月から4カ月(体重7kg)まで
- ・前向き抱っこ：7カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・タテ抱っこ：4カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・おんぶ：4カ月から36カ月(体重15kg)まで

賠償についてのご注意

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

首すわり前タテ抱っこの状態で生後14日から1カ月未満のお子さまの使用、タテ抱っこの状態での24カ月を超えてから36カ月までのお子さまの使用は、SGマーク被害者救済制度の対象となりません。

製品の欠陥によって事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。

連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階 TEL 03-5808-3300

〈事故の届出に必要な項目〉

- ①事故の原因となったSGマーク表示の製品
イ)製品の名前、SGマーク番号 ロ)製品の購入先、購入年月
- ②事故発生の状況
イ)事故発生年月日 ロ)事故発生場所 ハ)事故発生状況
- ③被害の状況
イ)被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所 ロ)被害の状況と程度

保証とアフターサービスについて

- ・保証期間中(お買い上げ日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〈電話連絡先〉

お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

受付時間:AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

MEMO
